

令和6年度全国学力・学習状況調査における

北九州市立 光貞 小学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、6年生を対象として、令和6年4月18日（木）に、「教科（国語、算数）に関する調査」、文部科学省が指定した日（4月10日から4月30日の間）に「児童質問調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にしていただきたいと思います。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1. 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2. 調査内容

- (1) 教科に関する調査（国語、算数）

教科に関する調査（国語、算数）	
①	身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等
②	知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関わる内容

※調査では、上記①と②を一体的に問うこととする。

- (2) 児童質問紙調査

児童質問紙調査	
○	学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

3. 教科に関する調査結果の概要

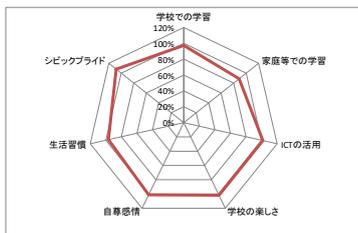
- (1) 全国・本市の学力調査（国語、算数）の結果

本年度の結果	国語		算数	
	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率
本市	9.3	66	9.6	60
全国	9.5	68	10.1	63

- (2) 本校の学力調査結果の分析

教科	全体的な傾向や特徴など	よくできた問題	努力が必要な問題
国語	8割以上の問題で、全国平均を大きく上回っており、無回答率も低い。特に、記述式問題は、全国平均を15ポイント以上上回っている。	目的や意図に応じて事実と感想、意見を区別して書いたり、物語文の心に残ったところと理由をまとめて書くなどの問題の正答率が高い。	集めた材料を分類したり、関係づけたりして伝え合う内容を検討する問題に課題がある。
算数	8割以上の問題で、全国平均を大きく上回っており、無回答率も低い。問題形式が短答式や選択式問題については、図形や数量関係の意味を理解し、正しく処理することができる。	数量の関係を捉え式に表したり、速さの意味について理解し、処理する問題の正答率が高い。	折れ線グラフから必要な数値を読み取り、条件に当てはまることを言葉や数を用いて記述する問題に課題がある。

4. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問調査結果の概要



質問調査の結果分析

○「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができていますか」の問いに対して、9割以上の児童が肯定的な回答をしており、全校で「問い」を核に自分の考えを書いたり、話し合ったりするなど、授業改善を進めてきた成果が出ている。

○「普段1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか」の問いに対して、「1時間未満」「全くしない」と回答した多かった。家庭学習の充実や生活習慣のあり方など、児童自身が家庭学習や生活習慣を見直す契機をつくっていく必要がある。

5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

- ① 教科に関する取組

今後も「問い」を基盤とした授業を構成し、自分の考えを深めたり、ICTを活用して話しあったりするなど、主体的な学びが発揮できる授業をより一層充実させる。

- ② 家庭生活習慣等に関する取組

学校活動でも家庭生活習慣について取り上げ、話し合わせたり、その様子を通信などで家庭に知らせたりすることで、引き続き保護者と連携して意識や実践力を高めるようにする。